



角田 充由  
(自民党)

**高齢の生活困窮者に  
対して支援を**

**問** 24年の厚生労働省の国民生活基礎調査では、高齢者の5人に1人が貧困のライン以下の所得で生活しており、なかでもひとり暮らしの高齢者の割合が多い。経済格差が広がる中、生活困窮の課題を抱える高齢者への対応が必要である。

高齢の生活困窮者は、サポートしてくれる制度や機関を知らず、自らの状況に合ったサービスを判断することも難しい状況であるなど、様々な理由から困窮した状態でありながら、SOSを発信できずにいるケースも多い。

高齢の生活困窮者に対する今後の市の対応は。

**答** 支援が必要な高齢者に対し、民生委員や、地域包括支援センターが、日頃から高齢者が地域で安心して生活できるように支援を行っている。

また、生活困窮者に対しては、自立相談支援窓口で様々な相談を受け、各種サービスに繋ぐなど、きめ細かな支援を行っている。

今後とも、引き続き自立相談支援窓口の周知を図るとともに、自ら援助を求めることができない方には、庁内各課が連携しながら、関係機関からより多くの情報を把握し、必要な支援が行えるよう、一層の連携に努める。

**その他の質問項目**

- ①市長の政治姿勢（地方分権、独自規制の見直し、公共施設マネジメントの取り組みほか）
- ②福祉政策（介護離職を減らしていくための取り組み、在宅サービスの推進ほか）
- ③医療政策（在宅医療、救急医療支援システムほか）
- ④空き家の有効活用



郷間 康久  
(統一)

**LRTの平石地区  
ルート見直しを**

**問** 平石地区では、市が提案するLRT導入ルートに対し、約85%の住民が反対を表明している。

11月17日の説明会で、市側はルートを見直すことは困難との見解を示したが、工夫すれば改善策は見つかるはず。住民を説得はしているが、住民が納得できる域には達していない。地域住民の意向に寄り添うことも歩み寄ることもしない計画は、市民合意を得た計画とは言えない。市長は民意を退けてまでもルート案の変更をする意思がないのか聞く。

言のルートの実現は周辺交通への影響が大きく、困難であることを11月の説明会で説明した。

特に、平出交差点は、交通の要所であり、交通の円滑化の確保は大変重要である。また、幹線道路の混雑は生活道路への自動車の流入を招き、安全性の低下が懸念されるため、提示したルートが最適と考えている。

今後とも、十分な安全策を講じることにより、児童の安全が確保されることや、スムーズな乗り換えができる停留場の周辺整備など、地域の利便性向上策などについて意見交換を行いながら事業を進めていく。

**その他の質問項目**

- ①LRT整備計画（市民合意、BRT選択肢の復権、整備スケジュールの見直しほか）
- ②若者の市政参画
- ③自治会の解散問題
- ④仮称第2次市文化振興基本計画の策定等
- ⑤山下川の改修計画
- ⑥コペンハーゲン市との友好都市締結
- ⑦平出工業団地の環境汚染問題



宇賀神 文雄  
(社民党)

**LRT計画・運営  
課題あり中止せよ**

**問** 27年11月に設立した新会社によるLRT運営は、大きな課題がある。

①朝夕ラッシュ時に、6分間隔で普通5本、快速5本の運行は、ダイヤ編成の上で無理があり、安全運行に問題が生じると考えるが、安全性をどのように担保するのか。

②JR・東武宇都宮線への乗り入れや駅西側の建設、大谷延伸など、大事業になるとしており、市の財政的負担を考慮すると、中止すべきでは。

40本、2分に満たない間隔で運行するなど、より頻度の高い事例もあり、十分実現が可能である。

快速運行は、自動車交通に影響のない車両基地周辺などへの追越施設の整備や信号等を用いた保安設備の整備など、安全性の確保について、引き続き、国と協議し、実現に向けて取り組む。

②LRTは、ネットワーク型コンパクトシティの形成を支える、総合的な公共交通ネットワークの要であり、必要不可欠な事業であることから、財政の健全性の確保に努めながら、JR宇都宮駅西側への延伸についても、段階的に取り組む。

**その他の質問項目**

- ①関東・東北豪雨による農業被害
- ②農業を取り巻く環境（TPPへの対応ほか）
- ③原発放射性物質を含む指定廃棄物最終処分場計画問題と放射能汚染
- ④戦争遺跡の保存・公開等
- ⑤労働行政（改正労働者派遣法ほか）
- ⑥社会資本の整備（市道の整備ほか）